

令和6年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名： 橋本市国際親善協会 （都道府県：和歌山県）

1. 当該地域の情報（令和6年3月現在）

地域の課題	現在、新たに当市で生活を始める外国人住民が（多くは技能実習生ら）、地域住民や地域のルールを知る機会が少ないことや、またそれらを共有できる場が少ない。そのため、ゴミ出しや騒音等で問題が起き、地域に馴染めない状態が起こっている。外国人住民からは災害時の情報取得等に不安を訴える声もある。 当市としても企業誘致を進める中で、人口減少もあり、今後も技能実習生の受入れや人数の増加が見込まれる。長く快適に、できれば永住を考えてくれるような支援を行っていきたいと考えている。
在住外国人数 外国人比率	【在住外国人数】512人 【外国人比率】0.86%
在住外国人の状況	【主な国籍と人数】1.ベトナム：182名 2.韓国：83名 3.ミャンマー：81名 4.中国：42名 5.フィリピン：27名 6.ネパール：25名 7.アメリカ：10名 8.タイ：8名 9.バングラデシュ：7名 9.インドネシア：7名 【在留資格】1.永住者：95名 2.技能実習2号ロ：78名 3.特別永住者：62名 4.特定技能1号：59名 5.技・人・国：55名 6.技能実習1号ロ：43名 7.日本人の配偶者等：24名 8.家族滞在：21名 9.介護：18名 10.技能実習3号ロ：14 【滞在年数・在留期間などの状況】 全体の約半数が永住者、特別永住者等長期間当市にて生活している方であるが、残りの半数は特定技能、技能実習等就労者であり、企業誘致に伴いその人数は増加し、全体数を押し上げている。
在住外国人の日本語教育の現状	和歌山県教育委員会人権教育推進課が行っている「きのくに学びの教室」にて、毎週月曜、水曜に2時間程度「日本語・生活、よみかき・教室」の講座がある。これは外国人だけではなく、学びなおしをしたい日本人も参加しているものの、対象者の在留資格を【定住者・日本人や永住者の配偶者等・家族滞在の人】に限定しており、参加人数は少ない。 生産年齢人口が減少している昨今、対象者を制限することなく、市民として生活している外国人労働者も参加できる日本語教室の開設が求められている。

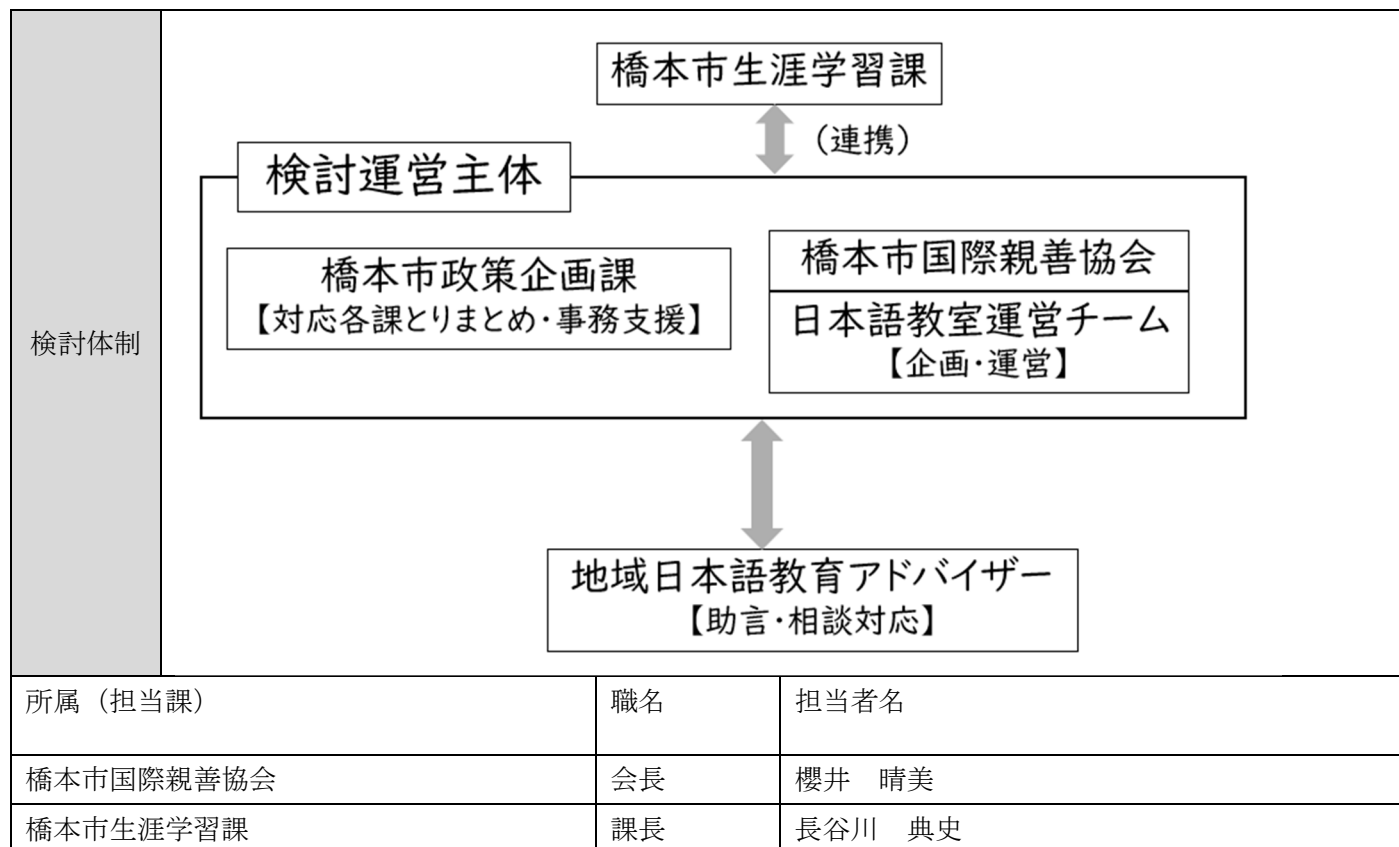
2. 事業の内容

本プログラム取組年数	1年目
事業の目的	日本語教室を提供することで日本語教育を推進し、外国人住民が日常生活及び社会生活を円滑に営むことができる環境を整備する。それに付随し、地域の課題として外国人住民が地域のルールや地域住民について知る機会が少ないことやそれらを共有できる場がないことが挙げられる。日本語教室が、地域住民とのコミュニケーションを図る場としても機能するような場所にもなれば良いと考える。
事業の概要	・ニーズ調査、分析 ・日本語学習支援者養成 ・日本語教室にて行う講座内容等を決定 ・日本語教室試行開催の場や日程を調整 ・日本語教室試行 ・地域住民への多文化共生理解促進
事業の対象期間	令和6年5月中旬～令和7年3月
前年度の実績 （2年目以降の団体のみ記載）	

担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	近藤 朋美			・日本語学習リソースの把握 ・教室カリキュラム作成 ・サポーターの育成と継続に関すること
	岡本 佳美			・広報活動 ・学習者、サポーターの募集 ・教室在籍管理
	葛原 昌文			・持続する教室体制づくり ・地域、組織、人がつながる連携体制の構築
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	中東 靖恵	岡山大学学術研究院社会文化科学学域	准教授	継続・新規（1年目）
	麻田 友子	京丹後市国際交流協会	事務局長	継続・新規（1年目）
	犬飼 康弘	公益財団法人ひろしま国際センター 研修部	日本語常勤講師	継続・新規（1年目）

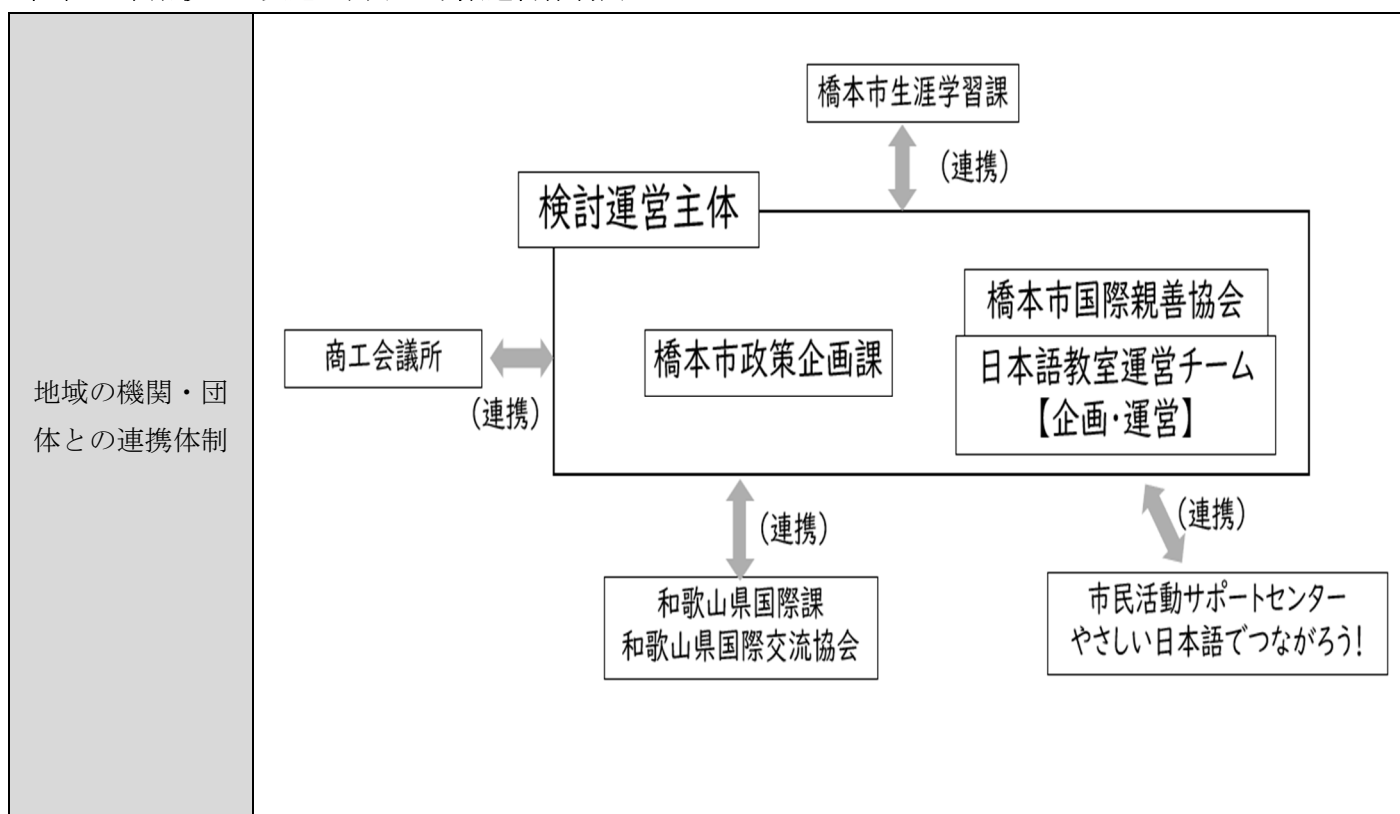
3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

（１）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



橋本市国際親善協会事務局 (橋本市生涯学習課)		西田 麻衣
橋本市政策企画課	課長	辻本 真吾
橋本市政策企画課	課長補佐	城野 将志
橋本市政策企画課	主査	久米田 尊
コーディネーター		近藤 朋美
コーディネーター		葛原 昌文
コーディネーター		岡本 佳美

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
橋本市国際親善協会		会長	櫻井 晴美
橋本市生涯学習課			西田 麻衣
橋本市政策企画課		主査	久米田 尊
和歌山県国際交流協会			奥 直子
和歌山県国際課			福地 徹
やさしい日本語でつながろう！		代表	近藤 朋美
商工会議所			
和歌山県教育委員会 人権教育推進課		社会教育 主事兼指 導主事	倉本 健吾

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの 主な活動	アドバイザーによる 助言・指導
令和6年 4月			
令和6年 5月	●5月24日事業オリエンテーション	●5月24日事業オリエンテーション出席	
令和6年 6月	●キックオフ会議 ●事業計画書作成提出 ●市・県関係機関への事業開始説明、協力依頼（事務局） ●企業・地域住民ヒアリング調査開始 ●やさしい日本語講座（8月～）周知	●キックオフ会議 ●企業地域住民ヒアリング方法内容検討→開始 ●やさしい日本語講座企画（8月～）	●キックオフ会議
令和6年 7月	●企業地域住民ヒアリング継続	●企業地域住民ヒアリング継続	（メール報告助言）
令和6年 8月	●企業地域住民ヒアリング継続→情報分析 ●やさしい日本語講座公民館開催 ●全体会議【上記情報分析を行い日本語教室について考える】	●企業地域住民ヒアリング継続 ●企業ヒアリング地域住民からの情報分析→アドバイザーへの報告	
令和6年 9月	●きのくに学びの教室訪問	●企業ヒアリング地域住民からの情報分析→アドバイザーへの報告 ●日本語学習サポーター育成研修企画 ●きのくに学びの教室訪問→プログラムの説明と住み分け協議	●全体会議（オンライン） 【ヒアリング結果報告、日本語学習サポーター育成研修について】
令和6年 10月	●日本語学習サポーター育成研修準備（企画・広報） ●実施団体情報交換会 ●やさしい日本語講座公民館開催	●日本語学習サポーター育成研修準備（企画・広報準備） ●実施団体情報交換会及びコーディネーター情報交換会参加	●アドバイザーのみでのオンライン会議 （メール報告助言）

令和6年 11月	●日本語学習サポーター育成研修（第1回開催） ●プレ日本語教室（交流会）企画	●日本語学習サポーター育成研修（第1回運営） ●地域日本語教育コーディネーター秋期研修参加（11月21日）	（メール報告助言） ●橋本市来訪 麻田アドバイザー （日本語学習サポーター育成研修第1回講師）
令和6年 12月	●日本語学習サポーター育成研修（第2～4回開催） ●プレ日本語教室（交流会）企画 ●実施団体情報交換会及びコーディネーター情報交換会	●日本語学習サポーター育成研修（第2～4回運営） ●プレ日本語教室（交流会）準備 ●実施団体情報交換会及びコーディネーター情報交換会参加	（メール報告助言） ●橋本市来訪 中東アドバイザー 麻田アドバイザー 犬飼アドバイザー （日本語学習サポーター育成研修第4回） ●アドバイザーのみで会議
令和7年 1月	●プレ教室（交流会）開催 ●来年度運営体制について協議 ●やさしい日本語講座公民館開催 ●	●プレ教室（交流会）運営 ●来年度運営体制検討協議	●橋本市来訪 犬飼アドバイザー （プレ教室）
令和7年 2月	●来年度運営体制について協議（続き） ●やさしい日本語講座公民館開催 ●企業訪問（日本語教室説明） ●日本語教室「はしもっと日本語」（4月開始）開催準備	●企業訪問（日本語教室説明） ●日本語教室「はしもっと日本語」開催準備	
令和7年 3月	●令和6年度最終報告書作成提出 ●日本語教室開催準備 ●企業訪問（日本語教室説明） ●サポーターを市民活動サポートセンター登録団体「はしもっと日本語」（「やさしい日本語でつながろう」を名称変更）にボランティア登録	●令和6年度最終報告書作成 ●日本語教室開催（4月開始）広報、学習者・サポーター募集、カリキュラム作成、サポーターレクチャー会 ●企業訪問（日本語教室説明） ●ボランティア団体「はしもっと日本語」会則の制定、会員名簿作成	●最終報告書確認

（2）立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	プレ教室（交流会）		
外国人参加者について	[国籍] アメリカ2名、ベトナム1名、オーストラリア1名、台湾1名 [属性] ALT、技人国、日本人の配偶者		
参加者数 （内 外国人数）	学習者 5名 サポーター 16名 （コーディネーター：3名、サポーター：13名 アドバイザー：1名）		
開催時間数	総時間 2時間	内訳 — 時間 × — 回	
開催頻度	—		
目標	・来年度開催する日本語教室に参加する外国人と日本人が交流する ・日本語学習サポーター育成研修受講者が研修の成果を試す場とする		

実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2025 年 1 月 18 日(土) 13:30～15:30	2	橋本市保健福祉センター	5	オリエンテーション	・日本の遊び（コマ回し、羽根つき、けん玉、だるま落とし）で交流 ・アドバイザーから広島のお話 ・紙飛行機作り →歌「365 日の紙飛行機」 ・「節分」についての短い説明文をグループで読む →折り紙で鬼作り・豆まきの歌	日本語指導者1名 サポーター16名 （コーディネーター、アドバイザー含む）

【主な活動】



日本の遊び（コマ回し、羽根つき、けん玉、だるま落とし）で交流



「節分」についての短い説明をサポーターと一緒に読んでいるところ



作った紙飛行機と鬼の折り紙を持って全員で記念撮影

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	・プレ教室（交流会）への参加者が少なかった点について、ヒアリング調査で訪問した企業とその後連携が取れていなかったことが一因であると考え。当市で多い技能実習生を教室に呼び込むためには、企業との連携が欠かせない。 2 月に市内の一企業から日本語教室についての問い合わせがあり、訪問し説明したところ、4 月から開催予定の教室に外国人技能実習生が参加するよう働きかけてもらえることになった。さらにもう一企業の訪問予定がある。今後も意見交換の場を設け、協力を得られるようにしていきたい。 ・プレ教室にひらがな、カタカナも未習の方（日本人の配偶者）が参加され、サポーターでは対応が難しかった。市内にこの方のような入門レベル学習者が一定数いると考えられるが、まだ把握できていない。4 月からの教室とは別に入門クラスを開催するか、ニーズを把握し、検討が必要だ。入門レベル学習者は、日本人の配偶者、家族滞在に多いと考え、市の教育委員会やこども課と連携を図っていく予定である。
--------------------	---

（3）その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
やさしい日本語講座	令和 6 年 8 月～令和 7 年 2 月（全 4 回実施）	市内 4 地区の公民館でやさしい日本語講座（ミニワークショップ付）を開催した。各回とも 2 時間 8 月 恋野地区公民館（公民館主催事業として開催） 参加者：21 名 10 月 学文路地区公民館 参加者：26 名 1 月 高野口地区公民館 参加者：40 名 2 月 橋本地区公民館 参加者：7 名 累計：94 名参加

		【目的】 1. 市民の多文化共生への理解を促進 2. 日本語教室立ち上げの取組周知 3. 地域の外国人に関する情報収集 4. 講座参加者からサポーターとしての教室参加へつなげる 【成果】外国人支援や日本語教育に全く関心のなかった方にも関心を持ってもらえ、地域での多文化共生を考えるきっかけとなった。講座内で日本語教室立ち上げの取組を紹介し、それをきっかけに日本語学習サポーター育成研修に参加した方が10名であった。 【NHKにて報道】 https://www3.nhk.or.jp/lnews/wakayama/20250131/2040019120.html
日本語学習サポーター育成研修	令和6年11月～12月（全4回）	日本語教室で学習支援をするサポーターを養成するための研修を行った。 【内容】 第1回：地域日本語教室の役割 講師：麻田アドバイザー 第2回：日本語学習支援の基本①（やさしい日本語） 講師：古田朋美氏 第3回：日本語学習支援の基本②（日本語学習支援のヒント） 講師：古田朋美氏 第4回：外国人と一緒にできる教室活動を考える 進行：コーディネーター3名 【参加者】申込：30名 受講終了証授与：26名 【成果】 ・当市で目指す日本語教室の理念、コンセプトを提示し、教室イメージを参加者と共有、教室愛称を募集した。16件の応募があり、その中から「はしもっと日本語」に決定した。 ・研修終了後、今後の教室活動への参加希望アンケートを実施したところ、35%が「参加する」、65%が「興味あり」と回答し、「参加できない」は0%であった。 ・外国人ゲストとして研修に協力してくれた在住歴の長い外国人から「教室活動にぜひ協力したい。」という声があり、外国人サポーターとしての教室参加やさらには運営に関わってもらうことも期待できる。このことは、大きな成果であったと考える。 ・日本語教師養成講座420時間修了者等、日本語教育に関する知識を有する方4名とつながった。

【主な活動】



やさしい日本語講座
（高野口地区公民館）



日本語学習サポーター
育成研修（第1回）



日本語学習サポーター
育成研修（第3回）

5. 今年度事業全体について

進捗状況	【日本語教室について】 今年度はブレ教室（交流会）のみ開催となり、日本語教室開催には至っていない。ニーズ調査の結果から、現在対話交流型教室の設置に向けた準備を行っている。 【その他の取組】 ・やさしい日本語講座は市内8か所の内4か所で開催が済んだ。市役所職員や幼稚園、小中学生保護者、先生等特定のカテゴリー向けの講座が開催できていないので、今後取り組んでいく。 ・日本語学習サポーター育成研修の受講者向けに4月からの教室開催を前に事前レクチャー会を開催する。また、サポーターをボランティア登録団体「はしもっと日本語」に会員登録し、ボランティア保険に加入できるようにした。
事業推進にあたり問題点と対応策	・4月から「はしもっと日本語」を開催するが、学習者、サポーターともに確保できるかどうかかわからない。状況により、広報や企業訪問を増やさなければいけない。 ・入門レベルの学習者に対する対応が未定である。数名把握しているが対応できていない。事業コーディネーターを中心にできるだけ早くニーズを把握し、支援の形を検討していく。
成果	【日本語教室について】 ・企業等ヒアリング調査の結果を踏まえ、サポーター育成研修で教室理念、教室コンセプトを掲げてサポーターと共有できた。 ・サポーター育成研修の外国人ゲストの中から、2名のベトナム人が外国人サポーターとして教室に参加してくれることとなった。 【その他の取組】 やさしい日本語講座が順調に開催でき、公民館以外のところから職員研修としてやボランティア団体で開催希望等オファーがきている。市民の間で、多文化共生、やさしい日本語、日本語教室への関心が高まってきていると言える。
地域の関係者との連携による効果	公民館でやさしい日本語講座を開催し、そこで日本語教室立ち上げの動きを周知することにより、関心が少しずつ高まっている。市議員や区長の講座参加もあり、今後の活動への協力が見込まれる。 また、2月に地元企業側から日本語教室についての問合せがあり、訪問できたことは学習者確保の面から大きな後押しとなった。今後、他の企業にも広がっていくことが期待できる。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査(6H) ②体制整備のための調整(25.5H) ③人材育成のための調整(9H) ④日本語教室開設及び運営のための調整(45H) ⑤教材作成に向けた調整(3H) ⑥その他(15H) （具体的な内容:地域日本語教育コーディネーター研修、実施団体及びコーディネーター情報交換会への出席、準備）
アドバイザーの主な助言	・外国人達が何をしたいのか、何に困っているのかを知る ・支援者達が何をしたいのか、どのように関わりたいのかを知る ・短い時間にいろんなものを詰め込み過ぎているため、参加者の主体性を引き出すような意識を持つとよい ・教室運営を行う上で、教室理念をしっかり持ち、それを共有し、一貫性を保つことが大切 ・学習者が少なくとも根気強く教室を開催し続け、勉強や学習というイメージより楽しい、行きたいと思ってもらい、外国人に広めてもらえる教室づくりが大切 ・市の総合計画に多文化共生や外国人支援に関することがあればより動きやすい ・プレスリリース等広報の方法について、他市の事例等の案内
今後の課題	・学習者、支援者が継続して参加し、教室活動を維持できるような内容とすること ・入門レベルの学習者に対する対応 ・本事業終了後も安定した教室開催を維持するための予算確保、運営体制の構築

今後の予定	1. 月に2回対話交流型教室「はしもっと日本語」を2か所で開催する (市や地域のイベントへの参加、地域のボランティア団体やサークルから講師招聘、ラボ等一般市民との交流機会を持つ活動も取り入れる) 2. (1)テキストを使った学習型教室(初級対象)のニーズ把握 (2)入門レベルのニーズ把握 (1)(2)を調査し、必要であれば試行開催できるように方法を検討 3. サポータースキルアップ研修・交流会開催 4. 新規サポーター育成研修 5. 安定した教室活動をしている他地域の教室を見学 6. やさしい日本語講座継続 7. プログラム終了後の教室維持に向けて予算確保、運営体制の構築について検討
--------------	---

本件担当： 橋本市国際親善協会事務局（橋本市政策企画課）